

アットホームカップ 2025 第 23 回インディペンデンスリーグ全日本大学サッカーフェスティバル
参加報告レポート 広島県サッカー協会所属 福山大学 1 年 小澤陸央

◆大会日時

2025 年 11 月 18 日(火)～11 月 21 日(金)

11 月 18 日(火) 1 回戦
11 月 19 日(水) 2 回戦
11 月 20 日(木) 準決勝
11 月 21 日(金) 決勝



◆大会参加スケジュール

2025 年 11 月 17 日(月)～11 月 19 日(水) 3 日間

11 月 17 日(月) 移動日・プラクティカル・座学
11 月 18 日(火) 1 回戦 札幌大学 second vs 日本体育大学 主審
11 月 19 日(水) 2 回戦 明治大学 vs 静岡産業大学 副審 1
帰宅

◆会場

- ・清瀬内山運動公園サッカー場 A 面・B 面(1 回戦～準決勝)
- ・赤羽スポーツの森公園競技場(決勝)



◆参加審判員

北海道(2 名) 大町悠馬、鈴木辰汰
東北(2 名) 生駒創史、佐野颯亮
北信越(1 名) 岩瀧紫生
関東(1 名) 糸井太陽
東海(1 名) 渡邊彪斗
関西(2 名) 行澤諒、中川航
中国(2 名) 松本隼翔、小澤陸央
九州(1 名) 松本侑翔

計 12 名



◆参加インストラクター・マネージャー

大柿 拓馬氏 赤坂 修氏 青山 健太氏
審判マネージャー西村 雄一氏 審判マネージャー村上 伸次氏

計 5 名

◆研修テーマ

大学チーム・選手：大学生の公式戦、集大成、成長

審判員：準備、協力、感謝、目の前の試合を作り上げる。

—成功は約束できないが、成長は約束する—

◆研修日程・大会割り当て

2025 年 10 月 28 日 (火) 事前研修 zoom

2025 年 11 月 18 日 (火) 1 回戦 12:30kickoff @清瀬内山運動公園サッカー場 A 面
札幌大学 second VS 日本体育大学 主審 INS: 大柿拓馬

2025 年 11 月 19 日 (水) 2 回戦 9:30kickoff @清瀬内山運動公園サッカー場 B 面
明治大学 VS 静岡産業大学 副審 1 INS: 大柿拓馬

◆振り返り

□11/17(月) 前日研修

・プラクティカル @別所沼公園 担当: 赤坂氏

◎ファールが起き笛を吹いた後の対応

笛「ピー」→シグナル→ポイント→9.15(壁の位置)→主審のポジションに着く→再開の笛

- ・ボールの近くに立つ選手がいた場合、「離れましょう」の一言のみ。
- ・笛「ピッ、ピッ」二回吹くことがあるが、笛「ピッ」または「ピー」一回で良い
- ・キッカーに「止めますか？」聞く審判員が多い

◎ベンチコントロール、4 審の対応

- ・4 審はハーフライン、両ベンチ中央のポジションから基本動かない
理由: 両ベンチの監視、自分のエリア確保、
- ・監督またはコーチが主審に対して異議をしている場合
「主審に判定に対して異議をしないでください」一度注意をする。
- ・それでも異議を続ける場合は、主審を呼び対象者へ警告を提示するよう伝える

・研修会 @プラザホテル浦和 会議室

① 担当: 大柿氏

- ・インテグリティ —表裏なく一貫していること—
- ・喜び、楽しみ、感動を消す=台無しにする
安全で安心、そして公平で公正。人と環境、組織を作り上げる。
- ・八百長 ・SNS の使用

② 担当: 赤坂氏

- ・説明や行動は意味を持ち簡潔に
余分なものを省く。削り落とす。
- ・同じ目的を持った仲間と、一つ屋根の下で生活をし、選手たちにとって思い出や集大成となる時間をサポートする。 成長へ前のめり。



□11月18日(火) 1回戦

○札幌大学 second VS 日本体育大学 主審

◎良かった点

- ・試合状況に合わせた動き方が出来た。
- ・ボールの出どころを確認しプレーの流れを予測できた。
(ボール→受け手→スペース→)
- ・マネージメント(選手とのコミュニケーション)
- ・FK 時のセレモニーの流れ(前日のプラクティカルを生かした)

△改善点

- ・90 分間の体力やフィジカル
- ・競技規則の理解
- ・キーパー二度触りの監視、判定
- ・判定するまでの状況判断



【ハーフタイムアドバイス：西村氏】

- ・試合状況に合わせた動き方。
- ・コート を 5 レーン に考えてボールに対して自分が一直線にならないようにする。
- ・最終的な位置が幅をとった位置ではなく、監視のスタート位置に幅を持ち、だんだん絞っていく。

【試合後アドバイス：村上氏】

- ・後半、特に終盤に体力が落ちる。
- ・普段から 90 分の試合を担当するように。

○研修会 担当：赤坂氏

・映像分析

主審を担当した人が共有したい事象等を挙げ、その時の状況の説明等を行い、明日自分たちはどうするのかを情報共有しました。

- ・DOGS0 案件…4 要件に当てはまるのかどうか、明日現場でこのようなことが起きたらどうするか共有
- ・キーパー二度触り…腕を使いボールをコントロールした後、捕球。気づいたのであれば反則を取るべき。明日同じようなことが起きたらどうするのか共有。

□11月19日(水) 2回戦

○明治大学 VS 静岡産業大学 副審 1

◎良かった点

- ・ラインキープ
- ・オフサイドの見極め
- ・主審とのアイコンタクト
- ・4th とのコミュニケーション

△改善点

- ・動きにバタつきがある
- ・激しいラインの上げ下げへの対応、ステップ
- ・1 日目の疲労回復がたりない(前夜のケア)



◆最後に

この度は、アットホームカップ 2025 第 23 回インディペンデンスリーグ全日本大学サッカーフェスティバルへ推薦していただき、ありがとうございました。この場をお借りして、中国サッカー協会や広島県サッカー協会、学連関連のすべての関係者の皆様に感謝申し上げます。

今回、I リーグ全国へ参加させていただき、大学世代の全国大会を肌で感じ、選手たちの全国へかける思いや、普段感じられない全国の高いレベルを感じながら、その高いレベルで審判が出来たことはこれからの審判活動に大きなものになるなと感じました。また、審判員として成長する前に、まずは人として成長するべきだと改めて感じました。当たり前のことを当たり前にやることや、SNS の使い方、ホテルや会場、控室などでの過ごし方について、いくら良いレフェリングをする審判員でも、普段の生活の部分が悪ければ評価以前に、大会へ参加させていただけなくなります。自分たちが何のために、遠くの会場まで足を運び、またその交通費を支給していただいて何をしに来たのか、そういった活動に対する向き合い方の部分を一から考え直す機会になりました。これから、中国地域や広島県の活動を通して、JUFA 主催の全国大会へ審判派遣をさせていただけるように、高い目標を持ちながら今後の審判活動に取り組んでいきたいと思っています。この期間、貴重な経験をすることが出来ました。本当に、ありがとうございました。今後とも、ご指導のほどよろしくお願いいたします。